

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	児童が主体的に学習に取り組めるように、児童が見通しをもち学習に取り組めるようにしたり、ICT機器を活用したりできるように授業展開を工夫していく。	中間評価		最終評価	
		教室前面の掲示物に配慮し、板書が見やすいように工夫していく。学習内容によって、学習形態を工夫し、互いに学び合う場を作るようにしていく。				
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 自分の思いを文字で正しく表現することが難しい。</p> <p>学 漢字、ひらがななど、字形を意識して書くことが難しく、定着しているとは言い難い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、ひらがな、カタカナの表記について、字形を意識して正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 「、」や「。」を正しく使って、伝えたいことを言葉で表現する力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルやデジタルドリルを活用し、字形を意識して正しい書き順で書けるように定着を図る。 常時活動として、毎週日記を1回以上書く取り組みを行っていく。 		
	算数	<p>学 計算はできるが、自ら考え答えを導き出す力が、十分身に付いているとは言い難い。</p> <p>学 計算の速さや正確さに個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現する力を伸ばしていく。 10の合成分解の理解を確実に身に付け、繰り上がり繰り下がりなど基礎的な計算力が身に付くように繰り返し指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間自力解決の時間を設定する。多様な考え方を共有しながら、具体物や絵、図、言葉などを用いて、自分の考えを表現する力の定着を図る。 東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルなどを授業や家庭学習でも活用し、繰り返し取り組みながら定着を図る。 		
3	国語	<p>調 「文章を書く」は、全国の平均よりも13.1ポイント低かった。</p> <p>学 想像したり伝えたい思いは進んでもつことができるが、適切な言葉で表現することが難しい。</p> <p>学 正確に読み取ることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 習った漢字を学習や生活の中で使えていないことが多いため、定着させていく必要がある。 自分の考えの大事な部分を相手に伝える力を伸ばしていく。 文章の大体は理解しているが、正確に読む力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルの活用や漢字の小テストを定期的に行い、単元ごとに定着を確認する。 授業の振り返りを書くことを習慣付け、文を書く活動に日常的に取り組む。 宿題等で音読に毎日取り組む。また、授業中には正確に読むことを意識し、叙述を押さえながら読むようにする。 		
	算数	<p>調 どの項目も平均より高い。その中でも、「長さ・かさ」の項目が低く、苦手な領域であることが分かる。</p> <p>学 文章問題の読み取りが難しい。(答えの単位間違いなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九の定着にばらつきがあるため、基礎基本の定着を図る必要がある。 かさや長さの正確な量感にばらつきがあるため、日頃の生活と結び付けて考える力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリル、家庭学習等で、かけ算九九の復習を続けていく。 算数的活動を充実させ、正確な長さやかさに触れる機会を増やす。 		
4	国語	<p>調 正答率は令和2年度の区の平均スコアを上回っている。個々の領域別では、「文章を書く」が区の平均より3ポイント、全国の平均より15ポイント下がっている。特に「定められた条件下で考えをまとめる」設問の正答率は、目標値を大きく下回っていた。</p> <p>学 学習には意欲的に取り組んでいる。「文章を書く」も、自分の好きな文章や条件が少ないものに関しては意欲的である。漢字やローマ字の習熟には個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 限られた文字数や段落数、テーマなど与えられた条件に基づき考えをまとめて書くことができるよう指導する必要がある。 漢字やローマ字について、正確に書きとる力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業後の振り返りでは視点や条件を与えることで、考えをまとめて記述する取り組みを行う。授業後の振り返りは毎時間行うことを目指す。 週に1回程度、朝学習の時間を使って漢字小テストやローマ字の小テストを行う。また、デジタルドリルを活用することで家庭学習での漢字学習時間を確保し、定着を図る。 		
	算数	<p>調 どの項目も区の平均点を上回っていた。正答率として最も低いのは「数と計算」であり、「図形」「測定」領域はどちらも区の平均を10ポイント以上、上回った。しかし、解答形式が「記述」になると正答できていない児童も多く、観点における「思考・判断・表現」の正答率も低い傾向が見られる。</p> <p>学 学習には意欲的に取り組んでいる。提出される課題の状況を見ると、筆算(たし算・ひき算・かけ算)などにおいて、繰り上がりや繰り下がりなどの単純な間違いが多い傾向がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がり繰り下がりやかけ算九九などの基礎基本の定着を図る必要がある。 自分の考えを文章化したり、口頭で説明したりする力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回程度、朝学習の時間を使って四則演算の復習小テストを行う。またデジタルドリルを活用することで定着を図る。 授業内で自分の考えを図や式、言葉を使って表現する時間をとる。また類似点や相違点を考えながら、他者の考えを説明するなど、考えを説明する力を養う。 		

5	国語	<p>【調】ほぼ全ての領域で平均を上回ったが、「作文問題」においては、区の平均を下回る結果となった。何を聞かれているのかを理解して、自分の考えを詳しく書く問題での正答が伸び悩んだ。</p> <p>【学】自分の考えを文章に表現する力が十分に身につけていない状況である。また、漢字の書き取りについては個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題文で問われていることに正対していない内容の回答をする児童も見られるため、自分の考えを文章に表現する力を伸ばしていく。 既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間や授業の時間を活用して短作文を書く取り組みを行う。分量は100字から200字程度とし、決められたテーマで書けるようにする。 小單元ごとに漢字ミニテストを行い、定着を図る。また、家庭学習での漢字練習を継続して行っていく。他教科においても既習の漢字を使うよう、ノート指導等で継続して指導していく。 		
	算数	<p>【調】全領域において区の平均を上回っているが、個々を見ると既習学習が定着している児童とそうでない児童の差が大きい。特に計算の仕方や自分の考えを書くような記述式の問題（活用の問題）を苦手としている児童が多かった。</p> <p>【学】基本的な計算の力は概ね身に付いている。授業中、自分の考えを表現してそれを説明したり、他のやり方を模索したりする力を伸ばしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 式からその意味を読み取ったり、正しく立式したりする力を伸ばしていく。 単純な計算問題はできるが、出題形式が変わったり複雑になったりすると正答までたどり着くことが難しいため、順序立てて解答していく指導を継続していく必要がある。 学習したことを活用する力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルを基本に、学習している単元の前学年での定着を確認し、必要に応じて復習をする。 一問一答の授業ではなく、自分の考えや友達のことを説明する機会を設けたり、図や表を用いて考えさせたりし、自ら活用できる力を付けていく。 		
6	国語	<p>【調】領域「読むこと」の正答率は、新宿区学力定着度調査の区の平均を3ポイント近く上回っていた。特に「説明文の内容を読み取る」設問では大きく力を付けていることがわかった。</p> <p>【学】与えられた課題については、前向きに取り組むことができる。その一方で、見通しをもって、自らの学習を調整したり、最後まで粘り強く学習したりする姿勢や経験に個人差があることが見て取れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 領域「書くこと」に於いては、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を下回り、特に「報告する文章を書く」内容では、自分の考えの理由をまとめて書く力を伸ばしていく。 「漢字の読み書き」は、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を上回っているが、敬語や文章の中で文脈にそった漢字を適切に使う力がまだ十分に身につけていないので、指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して自分の意見をもち、自分なりの考えを根拠を提示しながら、書いていく時間を十分に設定していく。 小單元ごとに短文中で漢字学習をする時間を適宜設ける。また、小單元ごとに漢字の小テストを行い、定着を図る。定着が不十分なものに関しては、東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルを活用して習熟を図る。 		
	算数	<p>【調】全領域で、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を上回っている。特に、図形の領域に於いては、およそ9ポイント区の平均を上回り、個人差はあるものの、学習の定着が見られる。</p> <p>【学】授業で自分の考えをもち、表現する力はある。他のやり方を模索したり、友達の考えからよりよい考え方に気づき、自分の考えを深めたりする力をより伸ばしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「整数の仲間わけ」の問題でミスが多い、初歩的な問題でのミスが目立つ。問題をきちんと読み、客観的な目で見直す力を伸ばしていく。 文章題を解く時の、立式で誤答しているケースが見られる、式を読み、式と問題の場面が一致しているか確認する指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃のワークテストやプリント、デジタルドリルなどでの取り組みで、問題の内容を正確に読み取り、解答後の見直しを励行する。 図などを活用しながら、立式の根拠を説明する機会を設け、正しく立式できる力を付けていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 学習に進んで取り組もうとする児童が多く、特に、楽器を演奏することが好きな児童が多い。 楽器の技能や階名唱などの知識の定着に個人差が見られ、苦手意識をもっている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能や知識の定着に個人差が見られ、自信をもてない児童や苦手意識をもっている児童が見られる。楽器の技能や基本的な知識が定着するように指導していく必要がある。 与えられた楽譜や課題をただ演奏したり取り組んだりするだけになってしまうことが多い。音楽を特徴付けている要素を手掛かりに、「こうしたい」と思いをもって表現を工夫する力を伸ばしていく。また、「もっとこうしよう」と、試行錯誤しながらより豊かな表現を目指していく力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて個別指導を行い、スモールステップで、できた達成感や喜びを感じられるようにする。 音楽を特徴づけている要素と曲想との関わりについて感じ取ることができるように、鑑賞の学習の中で、意見を交流して音楽の言葉を耕したり、視点を明確にして聴かせたりする。また、友達の演奏や考えに触れる時間を設け、互いによりよいところを見付けたり、よりよい表現にするために試行錯誤したりできるようにする。 			
図工	<ul style="list-style-type: none"> 作品をつくったり描いたりする活動が好きで楽しく取り組んでいる児童が多い。 手を挙げて生き生きと発表を掲げる児童も多い中、自分の活動や発言に自信を持てず周りの様子を見てから活動する児童も一定数いる。 活動内容に対し、完成のイメージをもてずに早く終わらせようとしてしまう児童がいる一方で時間がかかりすぎてしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言する児童に任せて自分で考えずに受け身になっている児童もいる。 活動の振り返りの内容が乏しかったり、ねらいに即して書いていなかったりする児童がいる。 授業の全体計画と個別の計画、ねらいを意識できずに、活動している児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手する児童の発言だけでなく、ワークシートなどから見取った他の児童の考えを、板書を活用するなどして全体に広げるようにする。 活動を行う中でよくできている点を個別にほめ、具体的に振り返りに書くよう声をかける。 毎回の授業の最初に今計画の中のどこを行っているか、ねらいは何かを明示する。また授業の終わりには次回の授業について予告を行う。 			

<p style="text-align: center;">特支</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人と良好な関係を築いたり、適切なコミュニケーションをとったりすることが難しい。 ・体の使い方がぎこちなかったり、姿勢を保ったりすることが困難な児童がいる。 ・指示を聞き取ったり、覚えていたりするのが難しい様子がみられる。 ・読んだり書いたりすることに課題を抱えている児童が多い。 ・自己肯定感が低く、称賛を受けることになれていない児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを想像することが難しかったり、自分の気持ちや考えを適切に表現できなかったりして、上手く人間関係を築くことが苦手な児童が見られる。 ・自分の体を調整することができないため、教具を上手く扱えなかったり、学習に集中して取り組めなかったりする。 ・記憶するときに、工夫する必要がある ・読んだり書いたりすることは、全教科・領域に関わるため学習に困難を感じる要因となっている。 ・初めてのことや自信のもてない学習活動に適切に取り組めないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルの課題を行ったり、少人数での活動を行ったりしてコミュニケーション能力を高め、学級に汎化させる。 ・感覚統合の運動を行う。 ・個の特性に応じた認知トレーニングを行ったり、教材を使用した学習を行ったりする。 ・できたこと等を具体的に褒め、自信をもたせる。 ・個のつまずきに基づき、課題をスモールステップで行い、できた経験を積み、読む書く活動への抵抗感を軽減させていく。 ・スモールステップで課題に取り組みできた経験を積ませたり、自信をもてるようにできたこと等を具体的に褒めたりする。 		
---------------------------------------	--	--	---	--	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。